

# 要 望 書

- 第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会の会場となるスポーツ施設等の充実について
- 中学校運動部活動の地域移行について

長 野 県 知 事 阿 部 守 一 様

長 野 県 教 育 長 内 堀 繁 利 様

長野県スポーツ協会会長 阿 部 守 一 様

令和 4 年 1 2 月 2 7 日

中信 4 市スポーツ協会・体育協会協議会

会 長 一般財団法人松本市スポーツ協会会長 臥雲 義尚

副会長 大 町 市 体 育 協 会 会 長 島田 剛志

副会長 特定非営利活動法人塩尻市体育協会会長 丸山 智之

副会長 特定非営利活動法人安曇野市スポーツ協会会長 赤羽 高明

## 目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

スポーツを取り巻く情勢について・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

### 【要望内容】

1 スポーツクライミング施設について（継続）・・・ 5

2 サッカー及び陸上競技施設について（継続）・・・ 5

3 バレーボール競技施設について（継続）・・・ 6

4 長野県松本平広域公園駐車場の増設について  
（継続）・・・ 6

5 長野県松本平広域公園体育館の全面改築について  
（継続）・・・ 7

6 ビーチバレーボールコートの新設について  
（継続）・・・ 9

7 第82回国民スポーツ大会開催に合わせた競技会  
場及び周辺環境の整備等に対する財政支援について  
（新規）・・・ 11

8 中学校の運動部活動の地域移行における長野県と  
市町村との協働について（新規）・・・ 12

9 中学校の運動部活動の地域移行における指導者の  
質の保障と指導者の確保について（新規）・・・ 13

## はじめに

歳末の候、貴職におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より県民のスポーツ振興にご尽力を賜り、深く感謝を申し上げます。

さて、私ども中信地区4市の松本市スポーツ協会、大町市体育協会、塩尻市体育協会、安曇野市スポーツ協会は、相互に連携して、中信4市スポーツ協会・体育協会協議会を令和2年7月30日に設立し、4市各会長による正副会長会議におきまして、中信地区並びに長野県のスポーツ振興のため、要望議案2件を議決し9月23日県庁に要望、昨年は7月2日に継続要望議案2件・新規要望議案4件を議決し、11月19日県庁に要望させていただきました。

本年は、7月15日に継続要望議案6件・新規要望議案3件を議決し、本日、要望を行うものです。

国内外からの誘客や移住を図るために、スポーツのソフトとハードを巧みに組み合わせ、信州の魅力を高め、市町村と県が力を合わせて魅力的なまちづくりをする事で、県民のしあわせづくりの実現を大きく推進する力が、スポーツにあると考えます。その意味も含め、スポーツを愛する県民としての要望と受けとめていただき、長野県の実現を視野に、どうぞ前向きなご検討を賜りますようお願いを申し上げます。

## スポーツを取り巻く情勢について

国は2011年にスポーツ基本法を制定し、2015年にはスポーツ庁を設置し、関係省庁と連携したスポーツ行政の総合的な推進により、スポーツ立国を目指しております。本年3月には、スポーツ基本法に基づく第3期スポーツ基本計画が策定され、昨年開催された2020東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを活かし、スポーツ実施率の向上、スポーツ団体のガバナンス・コードの制定によるスポーツ団体のコンプライアンスの徹底、クリーンでフェアなスポーツ（スポーツ・インテグリティ）の確保等、飛躍的な推進を目指しています。

また、加熱する学校運動部活動を軌道修正するため、2018年に、運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインを策定し、その実行を全国の中学校に求めると共に、学校教員の働き方改革に伴い、先ずは中学校運動部活動における休日の活動を、令和5年度から3年間を集中期間と定め、地域の運営主体に移行を求める通知を全国の自治体や関係教育機関に発しました。昨年度には全国の都道府県において各2か所のモデル事業を展開しその結果を公表しており、本年6月には、運動部活動の地域移行に関する検討会議から、①運動部活動改革の方向性、②地域における新たなスポーツ環境のあり方と構築の方法・スケジュール、③地域におけるスポーツ団体の整備充実・支援、④地域におけるスポーツ指導者の質の保障・量の確保方策・教師等の兼職兼業、⑤地域にお

けるスポーツ施設の確保・学校施設の利用管理、⑥大会のあり方、⑦地域スポーツにおける会費のあり方、⑧保険のあり方、⑨学習指導要領を含む高校入試・教師の採用選考・人事配置等関連諸制度のあり方、⑩地域移行の取組が進められている間の学校運動部活動のあり方・参加しやすい部活・複数部活経験・活動時間適正化・指導体制見直し・地域スポーツ団体との連携協働、⑪休日の地域移行達成時期、⑫本提言の着実な実施、等について提言を受け、それに基づき関連する施策に取り組み始めています。

長野県及び長野県教育委員会は、1978年のやまびこ国体を成功させ、これに続き、1998年の長野冬季オリンピックを県民と共に総力を挙げて誘致し、様々な困難を乗り越え開催にこぎつけると共に、優れた運営能力をいかんなく発揮し、悪天候をもはねのけ、世界に感動を届ける事ができました。特に、県内では1校1国運動による学習と海外選手との交流や観戦・応援を通して、青少年に代えがたい体験を提供しました。また、オリンピックの遺産を長年にわたりスポーツイベント等に財源として活用し、長野県のスポーツ振興の基礎作りに大きく貢献してまいりました。

そして近年、2028（令和10）年に長野県で開催が予定される第82回国民スポーツ大会及び第27回全国障害者スポーツ大会の担当組織を充実させつつ、開催地をほぼ選定すると共に、長野県競技力向上基本計画及び、障がい者スポーツ行動推進計画により、具体的な行動に力を入れてきており、また、総合開閉会式会場及び陸上競技会場となる松本平

広域公園陸上競技場の全面改築にも着手しています。

第82回国民スポーツ大会では、全39種目の内10種目について中信4市が選定されており、都市別には、松本市では、陸上競技、サッカー少年男子、バレーボール6人制成年男女、自転車トラックレース成年男子・少年男女、軟式野球、なぎなたの開催が、大町市ではサッカー少年女子、バレーボール6人制少年男子、スポーツクライミングの開催が、塩尻市ではバドミントン全種目、銃剣道の開催が、安曇野市でバレーボール6人制少年女子、ウェイトリフティングの開催がそれぞれ予定されています。

また、第27回全国障害者スポーツ大会では、全14種目の内3種目、6障害区分について中信3市が選定されています。都市別には、松本市では、陸上競技の身体障がい区分・知的障がい区分、バレーボール知的障がい区分、サッカー知的障がい区分の開催が、大町市ではバレーボール精神障がい区分の開催が、安曇野市ではバレーボール身体障がい区分の開催がそれぞれ予定されています。

中信4市におきましては、このように国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会の実施種目が具体化され、競技会の主管を担う各競技団体もその準備を事業計画に位置付けると共に、ユメックスアリーナ（塩尻市総合体育館）が昨年4月に供用開始され、ANCアリーナ（安曇野市総合体育館）が昨秋完成し、本年当初に供用開始をしており、これらを契機に、中信地区のスポーツ施設を中心に、さらなる長野県のスポーツ推進が期待されています。

## 要 望 内 容

### 1 スポーツクライミング施設について（継続）

スポーツクライミング競技については、県内に常設の施設がないため、開催にあたっては新たに施設を建設しなければなりません。スポーツクライミング施設は特殊施設となるため、大町市が整備する場合は、仮設で整備し国民スポーツ大会終了後に解体しなければならず、県が整備する事で、恒久的な施設としてスポーツクライミング競技の普及、振興を図ることができます。

併せまして、第2次長野県スポーツ推進計画の基本目標の4、スポーツの持つ力の多面的活用において、信州ならではのスポーツの魅力発信と題し、「山岳スポーツやウィンタースポーツをはじめ信州で親しまれているスポーツの魅力を世界に発信するとともに、より受け入れやすい環境を整え誘客を促進します。」と記載されています。現在、オリンピック種目となったスポーツクライミングは、観光立県を目指す長野県にとって欠くことができない魅力的なコンテンツとなっております。

よって、長野県及び長野県教育委員会におかれましては、スポーツクライミング施設を県により整備いただくとともに、登山・クライミングの教育施設として、また特色ある県の観光の目玉として、より一層の充実を図っていただくよう強く要望致します。

### 2 サッカー及び陸上競技施設について（継続）

サッカー競技会場となる大町市のサッカー場は昭和52年に、陸上競技場が昭和53年に供用開始され、建設から43年以上経過しており、国民スポーツ大会開催年には築50年となり、いずれも開催にあたっては改修が必要です。

よって、長野県及び長野県教育委員会におかれましては、サッカー競技を予定しております、大町市運動公園サッカ

一場のスタンド等の改修並びに大町市陸上競技場のスタンド改修及び芝生張替えに対し、積極的な助成を要望致します。

加えて、陸上競技場は、都道府県対抗で優勝を重ねている長野県高校駅伝の発着地点である事から、その整備が望まれることに加え、冷涼な気候は温泉地であることと併せ、スポーツクライミングとともに、格好の合宿地となり、国内外からの誘客に通ずるものと考えます。

### 3 バレーボール競技施設について（継続）

国民スポーツ大会バレーボール競技の会場となる大町市総合体育館は、昭和63年に供用が開始され、建設から既に30年以上経過しており、開催年には築40年を数え、特に我が国の目指す多様な社会を実現するための全国障害者スポーツ大会のバレーボール競技の場ともなるため、開催にあたっては改修が必要です。

よって、長野県及び長野県教育委員会におかれましては、大町市運動公園総合体育館の大規模改修について、積極的な助成を要望致します。

### 4 長野県松本平広域公園駐車場の増設について（継続）

長野県松本平広域公園は、陸上競技場、テニスコート、サッカー場、公園と、多岐にわたり多くの県民に利用されています。特に、陸上競技場は老朽化と一種公認の更新のために、2万人規模を基本とした全面改築が決定し、第82回国民スポーツ大会に向けて整備計画が進んでいます。

しかしながら、公共交通施設も少なく、移動はマイカーや貸し切りバスに頼らざるを得ません。

また、アルウィンでのプロサッカーチームの試合では、すでに大芝生広場も使い切り、不足の状況です。

今後、国民スポーツ大会のテニス種目が松本市内で開催されることになれば、コートの拡張も必要となり、駐車場

不足はさらに深刻なものとなります。この事は、長野県による精力的なスポーツ施設の充実が図られながら、駐車場不足で、陸上競技場、球技場、テニスコート、体育館等の使用制限をせざるを得ない状況が予想されます。

よって、長野県及び長野県教育委員会におかれましては、松本平広域公園の駐車場の増設により、十分な確保をしていただきますよう、強く要望すると共に、昨年 of 要望時に回答いただきました仮設駐車場の計画についてご説明いただきたい。

## 5 長野県松本平広域公園体育館の全面改築について（継続）

長野県松本平広域公園体育館は昭和53年のやまびこ国体に合わせ整備されて以来、広範な長野県において各地域から均等な時間で短時間に参集できる施設として県大会等全県民のスポーツ拠点施設として広く利用されています。加えて北信越・関東甲信越・中部日本大会等のブロック大会、全国規模のスポーツ大会を開催する施設としても利用されております。

一方、立地的好条件からこの体育館の利用を希望する団体は多く、希望日が重複するため、この体育館の確保ができない場合には、中信4市が市民のために設置している各市の体育館に希望が移り、県内プロスポーツチームのホームゲームや県大会以上の大会が優先されるため、地域住民の利用に支障が出ているところです。

長野県が定めた第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会の開催基本方針では、より多くの県民がそれぞれの関心や適性等に応じて「する」「みる」「ささえる」など様々な形でスポーツに参加できる文化の創造を謳い、また実施目標においては、健康長寿世界一の信州の実現を目指す事、子どもたちが夢や希望を未来へとつなぐことができる大会とする事、障がいの有無にかかわらず

スポーツを通じた交流を拡大するなど誰にでも「居場所」と「出番」があり多様性を尊重する共生社会づくりを後押しする大会とする事、少子高齢化社会を迎え将来にわたり安全で適正なスポーツ環境を提供するとともに、誰もが生涯を通じて気軽にスポーツに親しめる環境づくりを推進する大会とする事、長野県の誇れる魅力を県民一人ひとりが見つめ直し県内外に発信する事、全国から訪れる数多くの来県者を温かいおもてなしの心で迎え、一人でも多くの方に長野県のファンとなっただけの大会とする事を掲げています。そこで、総合開閉会式主会場である陸上競技場の雨天等の補助会場として、十分な広さと誰もが使い易いユニバーサルデザインにより建設された体育館が隣接することは、開催基本方針及び実施目標を達成し、成功に向けての重要な要件になります。加えまして長野県民が新たに整備された体育館で誇りをもっておもてなしを行う事ができる環境を整える事は、大会後に県民への最高の遺産の一つとなる事と思われまます。

また、ブロック大会、全国大会、国際競技会、プロスポーツ等には多くの県外者が長野県を訪れるため、この体育館の全面改築は宿泊・飲食等による経済対策として、また長野県信州まつもと空港の利用者拡大の具体的な施策ともなります。

併せまして、松本平広域公園体育館の拡張整備は、地域住民による各市の体育館利用の機会を増やし、国が地方自治体に求めるスポーツ実施率の向上に大きく寄与するものと確信いたします。

一昨年の要望活動におきましては、地元県議会議員から「長野県は、実現に向けて研究をすべき。」とのお言葉をいただいております。国においては、スポーツ立国の計画の中で、大規模スポーツ施設の必要性を謳っております。

また、スポーツ庁・経済産業省では、成長戦略フォローアップ（令和3年6月18日閣議決定）において、「全国のスタジアム・

アリーナについて、多様な世代が集う交流拠点として、2017年から2025年までに20拠点を実現する」とされていることを踏まえた、「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ選定要綱に基づき、「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」の公募を令和2年度から開始していますが、長野県からの応募はされていないように見受けられます。

加えて、国の最も警戒する地震の一つとして、南海トラフ巨大地震があり、静岡県の中部電力浜岡原子力発電所の事故が起きた場合の広域避難市町村に中信地区等が指定されているとの事から、大挙して高速道路から避難してくる静岡県民の円滑な受け入れを行うために、当該施設は中信地区の入り口である塩尻北インターにも近く、全面改修される陸上競技場と併せ、防災施設としての機能を持たせ、避難者の一時的受け入れに活用する事も視野に入れていただきたいと思います。財源確保には、広島市民球場のように、防災や危機管理の面からも国の財源確保にお取り組みいただきたいと思います。

よって、長野県及び長野県教育委員会におかれましては、長野県松本平広域公園内の体育館を、石川県が設置するいしかわ総合スポーツセンター規模[メインアリーナ：バスケットボール4面、サブアリーナ：2面]及びその内容以上で、ユニバーサルデザインを重視した全面改築をしていただきますよう、強く要望を申し上げます。

また、ユニバーサルデザインに配慮した施設として空調設備と共に改修に着手と伺っていますが、詳しい内容をご説明いただきたく存じます。

## 6 ビーチバレーボールコートの新設について（継続）

ビーチバレーボールは国民スポーツ大会の種目であり、本年度の第77回とちぎ国体の少年女子では、海のない岐

岐阜県が優勝をしており、平日には県内に整備された練習コートが大きく貢献していると聞いております。しかしながら国スポ競技人口の拡大と競技力向上が求められている長野県の場合は、県下唯一の練習会場が駒ヶ根市と遠く、国スポ施設として高森町への整備も時間を要すると聞いており、十分な練習回数と時間を確保する事が難しい状況です。

また、高校生チームの現状は中学生同様に週末に限っての駒ヶ根市や山梨県内コート、高瀬川河川敷の砂地などでの練習を余儀なくされています。長野県ビーチバレーボール連盟も松本市に拠点を置き指導体制が充実していることも併せまして、松本平広域公園内等にビーチバレーボールコートの新設を強く要望するものです。

少子化時代の中学校、高等学校の部活動では、バレーボールの構成人員が集まらず、バレーボールに親しみたい生徒があきらめざるを得ない例もありますが、ビーチバレーボールのチーム構成は2名（中学生は4名）と参加しやすく、中学校運動部活動の地域移行において、既存の部活以外にも楽しめる部活動の普及が望まれています。併せまして、青少年及び成人の体力維持向上を図るために最適な種目のひとつであるため、生涯スポーツ種目としても参加しやすいビーチバレーボールの普及は、国が地方自治体に求めるスポーツ実施率の向上に大きく寄与するものです。

また、当該種目は、オリンピックをはじめ国際的にポピュラーな種目であるため、国と地域を超えた交流を図る事ができ、「するスポーツ」、「見るスポーツ」、「支えるスポーツ」として、今後県民に広く普及をはかる事ができる種目です。

長野県バレーボール協会は、第82回国民スポーツ大会に向け、選手強化を図って行く計画です。長野国民スポーツ大会のビーチバレーボール会場は、南信高森町への設置が第3次で選定されておりますが、同協会はそれとは別に

松本市（中信地区）をジュニア層の本格的な強化拠点と考えており、全県から集まりやすい時間的距離において最適である松本市内へのコート設置を、長野県教育委員会に要望しております。また、県外からの交流人口の増加に伴う信州まつもと空港の利用者増を含め、経済的な恩恵は中信地域をはじめ、長野県内に生じる効果が期待できます。

よって、長野県及び長野県教育委員会におかれましては、松本平広域公園内等に最低2面以上のビーチバレーボールコートの新設をしていただきますよう、強く要望を申しあげます。

**7 第82回国民スポーツ大会開催に合わせた競技会場及び  
周辺環境の整備等に対する財政支援について（新規）**

松本市では、7競技（6施設）\*で同大会の競技開催を予定していますが、6年後の施設状況を想定すると、国民スポーツ大会を開催するためには改修を必要とする箇所があります。

特にテニス競技は、県と協議を重ねた結果、浅間温泉庭球公園（市施設）と松本平広域公園（県施設）の2会場で開催する事が決定しました。しかしながら、テニス競技のメイン会場となる浅間温泉庭球公園の近隣には、他の競技・練習会場として予定している野球場・総合体育館・かりがねサッカー場等があり、大会期間中の駐車場不足が懸念されます。テニス競技運営に支障をきたすことのないよう十分な駐車スペースの確保が必要です。

\* 国スポ／障スポ

陸上競技・全種別／身体障がい区分／知的障がい区分

サッカー・・・・・・・・少年男子／知的障がい区分

（松本市サッカー場・同かりがねサッカー場）

テニス・・・・・・・・全種別（浅間温泉庭球公園）

バレーボール・・・6人制成年男子・成年女子

／知的障がい区分（松本市総合体育館）  
自転車トラックレース・・・成年男子・少年男子・女子  
（美鈴湖自転車競技場）  
軟式野球・・・・・・・・・・成年男子（松本市野球場・  
同四賀球場）  
なぎなた・・・成年女子・少年女子（松本市総合体育館）

これら、第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会の各種競技会場となる松本市のスポーツ施設は基幹体育施設であり、施設の規模からも所要の改修費用が増加する事が予想されます。

また、施設整備等の補助金は、事業費の1/2以内、ソフト事業については、補助の予定がないことから、開催競技が多い自治体（受け入れる出場選手が多い自治体）においては、費用負担が大きくなります。

よって、長野県及び長野県教育委員会におかれましては、施設整備等に対する十分な財政支援を積極的にしていただきますよう、強く要望を申し上げます。

## 8 中学校の運動部活動の地域移行における長野県と市町村との協働について（新規）

来年度から始まる、休日の中学校の運動部活動の地域移行及び、その後の全面地域移行において、現場を持つ市町村及び競技団体等においては、子ども達がこれまで以上にスポーツとの関わり合いを持ち、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようにするための準備に着手しています。

この準備の中で、理念・目的・方針の明確化、子どもを主語とした制度づくり、スポーツの機会均等・格差、指導の質の保障・指導者の確保、大会のあり方、スポーツ施設・用具、十分な賠償制度等リスク管理、家族・保護者の負担増、学校・地域・保護者間の相互連携、生徒指導に関わる

機能の一部（部活動指導）喪失、教育職員の兼職兼業の運用等、様々な課題が明らかになってきており、一つ一つの解決が求められます。

運動部活動の地域移行に関する検討会議提言 P56 において「すべての都道府県において、休日の運動部活動の地域移行に向けた具体的な取組やスケジュール等を定めた推進計画を策定し、それを基に各市町村においても推進計画を策定することを規定することが適当である。」とあります。

よって、長野県教育委員会においては、県の推進計画を明らかにしていただくと共に、その策定の中で生じる課題について、市町村と協働すべきことは投げかけ、対話し、国に要望すべきことは要望していただき、円滑な地域移行が行われ、子ども達が今回の改革でスポーツをあきらめるようなことが無いようにしていただきますよう、強く要望を申しあげます。

## 9 中学校の運動部活動の地域移行における指導者の質の保障と指導者の確保について（新規）

来年度から始まる、休日の中学校の運動部活動の地域移行及び、その後の全面地域移行において、教員顧問に代わる指導者確保が喫緊の課題です。国は、公認スポーツ指導者として質の保障がされた地域指導者の確保が必要としていますが、以前長野県スポーツ協会から提供されていた公認スポーツ指導者の情報は、個人情報保護を理由に提供されなくなりました。一方、日本スポーツ協会では、マッチングシステムの利活用を推奨していますが、実際に指導者がマッチングシステムにおいて登録しているのか、また募集をかけても返事が来るのか来ないのか、いつ返事が来るのかは全く分からない状態です。市町村としては、顔の見える指導者に声をかけ、依頼して行く地道な取組をしなければ、指導者確保の壁は更に高くなってしまいます。

よって、長野県教育委員会におかれましては、県内における公認スポーツ指導者の具体的な確保方策を考えていただくと共に、長野県スポーツ協会におかれましては、指導者情報の扱いを工夫する事について見解をいただくと共に、具体的な確保方策を貴協会加盟団体と共に考えていただきますよう強く要望申しあげます。

令和4年12月27日

一般財団法人 松本市スポーツ協会会長 臥雲 義尚 印

大町市体育協会会長 島田 剛志 印

特定非営利活動法人 塩尻市体育協会会長 丸山 智之 印

特定非営利活動法人 安曇野市スポーツ協会会長 赤羽 高明 印